



(写真提供：茨城県広報広聴課)

今月の1枚

偕楽園と萩

水戸市にある偕楽園は、金沢の兼六園、岡山の後楽園と並ぶ「日本三公園」の1つです。天保13年(1842年)に第15代将軍 徳川慶喜公の父である水戸藩第9代藩主 徳川斉昭公が、領内の民と“偕(とも)”に“楽”しむ“場所(園)”にしたいとの願いを込め造園されました。偕楽園といえば、早春の「梅まつり」が有名ですが、秋の「萩まつり」も歴史ある秋の風物詩として多くの人々に親しまれています。

偕楽園の萩は、見晴広場を中心にミヤギノハギなど5種類、約750株が植えられています。この萩は、斉昭公が1841年から1842年に仙台領の伊達藩より譲り受けたものを、偕楽園創設時に植えたのが始まりと言われています。そのため偕楽園に咲く萩は、ミヤギノハギ(宮城野萩)が中心となっています。その他白萩、山萩、丸葉萩などが咲き競い、偕楽園の秋の風情を楽しむことができます。

園内の萩は、斉昭公の時代に軍馬の冬の飼料として栽培されていたとも伝えられています。また、花が咲き終わった後、萩の葉が落ちて枯れるまで置いておき、孟宗竹林付近の萩垣として利用しています。

平成26年9月1日(月)から9月21日(日)まで、「第47回 水戸の萩まつり」が開催されます。期間中は、園内のライトアップ(9月1～21日)や俳句大会、スズムシの放虫(9月7日)など、様々なイベントが開催されます。その中でも9月8日の“中秋の名月”に催される「月見の会」は、好文亭内や見晴広場において茶会やステージイベントなど、夜の偕楽園を楽しむこと出来ます。

この秋は、万葉集の歌の題材として最も多く用いられてきた紅紫色や白色に咲き誇る萩を、ご家族ご友人とご一緒に偕楽園で楽しまれてはいかがでしょうか。



◆所在地：茨城県水戸市常磐町 1-3-3
アクセス：(車)常磐自動車道「水戸1C」より、約20分
(最寄駅)JR常磐線「水戸駅」より、水戸駅北口偕楽園行きバスで約20分

※イベントの詳細など最新情報につきましては、「一般社団法人水戸観光協会」までお問い合わせ下さい。
(HP：<http://www.mitokoumon.com> TEL：029-224-0441)